

「気になる」子どもに関する保育者のイメージと支援について

Nursery school teachers' image of and support for children
who are concerned about

松田真正・渡邊亮太

くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学『研究紀要』

第49巻 第1号 別刷

2016年9月

「気になる」子どもに関する保育者のイメージと支援について

Nursery school teachers' image of and support for children who are concerned about

松田 真正, 渡邊 亮太

Naomasa MATSUDA, Ryota WATANABE

Abstract

This study aims to elucidate nursery school teachers' image of children who are concerned about, and the factors they consider important when supporting these children. The results of the study revealed that nursery school teachers' image of children they are concerned about almost overlaps with their image of children who have an inclination towards a developmental disability. Moreover, it was found that while supporting these students, nursery school teachers emphasize working with the group that the students belong to, besides individually reaching out to these students. From these results, we discussed how the quality of support can be improved for students with special needs.

I はじめに

筆者らは、2004年から2013年までS市教育委員会の特別支援教育スーパーザーザーやH市健康福祉センターの言語相談員として、保育所や幼稚園に巡回して、気になる子どもの発達について教職員や保護者と一緒に考える機会を得てきた。また、2014年から現在に至るまで、K市役所障害児アドバイザー事業に協力して、私立保育園や公立保育園を巡回して、「気になる」子どもの支援方法について保育者や保護者らと一緒に考える機会を得ている。

この巡回相談の中で、保育者から「自分の気持ちをコントロールできない」「落ち着きがなく、集団活動に参加できない」「他児とのトラブルが多い」などの特徴を持つ子どもに対して、どのように保育を進めていけばよいかという相談を度々受けてきた。また、「医療機関等で診断はされていないが、発達の気になる子が多くいる」という意見を聞く機会も多くあった。

平澤ら(2005)は、受診している障害群よりも受診していないが保育者にとって気になる行動を示す子ども群の方が、保育対応が困難であることを明らかにした。また、対応策として保育者と保護者だけによる支援体制ではなく、関係機関による支援体制強化の必要性を指摘している。また、郷間ら(2008)の研究においても、保育者が保育における指導上の問題を感じた経験は、受診している障害児よりも受診していない「気になる」子どもの方が有意に多いことが報告されている。さらに、池田ら(2007)の研究では、「気になる」子どもが増加していると感じている保育者が数多くいることを報告している。

このように、現在の保育現場において、「気になる」子どもへの対応が大きな課題となっていることは明らかである。

II 研究の目的

「気になる」子どもという言葉は、保育者の主観であり、明確な定義はないと松永（2012）が報告している。そこで、本稿では「気になる」子どもの定義を探る先行研究を調査し、保育者の感じる「気になる」子どもとはどのようなイメージなのか、また、保育者が「気になる」子どもの支援においてどのようなことを重視しているかを探ることを目的とする。

III 結果と考察

1. 「気になる」子どもに対する保育者のイメージを探る先行研究

「気になる」子どもに対する保育者のイメージを探る先行研究は、自由記述による方法と行動リストの評定を保育者に求める方法等の、主に二通りの方法で実施されている。

一つは、保育者に「気になる」子どもの行動についての自由記述を求めるものである（肥後，2001：吉村，2003：尾崎ら，2009：岡村，2011：井口，2000：池田ら，2007：久保山ら，2009）。肥後（2001）は、保育者の捉える「気になる」子どもの行動特徴の自由記述を詳細に分析し、「攻撃性」「多動性」「疎通感のなさ」「自己表出の問題」「集団参加の困難」「情緒の問題」「その他」（活動性・親子関係など）に分類して分析している。

次に、行動チェックリストを保育者に提示して評定を求める調査である（玉井ら，2011：本郷ら，2003：本郷，2006：木村ら，2011：藤崎ら，2010）。本郷（2006）は、保育者に設定した行動チェックリストの評定をもとめ、その評定の因子分析から、「気になる」子どもの行動特徴として「対人トラブル」「落ち着きのなさ」「状況への順応性の低さ」「ルール違反」「衝動性等」の5因子を報告している。

表1は、上記の肥後（2001）と本郷（2006）らが報告した「気になる」子どもに関する保育者が考える要因と、発達障害の特性との関連性を示したものである。肥後（2001）が報告した要因である「攻撃性」については、発達障害の特性ではなく、二次的な障害の可能性が高いと考えられることから「その他」に分類した。また、本郷（2006）の報告した要因である「対人トラブル」は、自閉症スペクトラムとADHDの特性の両方に関係する可能性があることから、両方に関係する要因とした。表1から理解できるように、両者の研究で報告された要因のほとんどは、自閉症スペクトラムかADHDの特性に関連していることが理解できる。

つまり、保育者が思う「気になる」子どものイメージは、発達障害傾向のある子どものイメージであることが示された。また、肥後（2001）や本郷（2006）らが報告している自閉症スペクトラムやADHDに関係する要因は、いずれも社会性に関連する要因であり、保育者が子どもの社会性を重要視して保育を実践していることが推測される。

表1 「気になる」子どもの要因（肥後と本郷）と発達障害の特性

障害特性 /研究報告者	肥後（2001）	本郷（2006）
自閉症スペクトラムの特性	「自己表出の問題」 「集団参加の困難」 「疎通感のなさ」 「自己表出の問題」	「対人トラブル」 「状況への順応性の低さ」
ADHDの特性	「多動性」	「対人トラブル」 「落ち着きのなさ」 「衝動性」
その他	「攻撃性」	

2. 支援についての保育者の意識調査に関する先行研究

「気になる」子どもへの支援についての保育者の意識調査に関する先行研究は、以下のとおり散見される。

小谷ら（2008）の保育者の意識調査では、「気になる」子どもへの対応において保育者が重視していることとして、「保育者間の連携」と「保育者と保護者との連携」が重要視する要因として報告されている。さらに、具体的な対応についても言及しており、「個別対応（1対1対応）」「遊びの工夫」「ほめる」「他児とのコミュニケーションにおける中継役」などが報告されている。

本郷ら（2003）は、保育者に対応行動リストを用いて調査し、その因子分析から、「気になる」子どもへの対応として、「注意・指導」「環境への配慮」「遊びの機会づくり」「気分の安定」の4因子を見いだしている。実際の「気になる」子どもへの対応は、一人一人の子どもの特性が異なるため、その対応も一様ではない。それゆえ、様々な支援が考えられるが、その中でも、本郷ら（2003）は「気になる」子どもの保育を進めるに当たっては、その子自身（個体能力）と子どもと子どもを取り巻く人々との関係性の両側面から子どもを捉える視点を重要視している。さらに、「気になる」子どもの集団適応過程に関する事例研究では、「気になる」子どもが所属する集団が、特性のある子どもを受け入れる集団へと変化していくことの重要性を示唆している。また、刑部（1998）、金田ら（2000）、本郷（2007）らも、保育者は「気になる」子どもへの個別の支援ばかりではなく、「気になる」子どもの所属する集団への支援を重要視しているという見解の報告をしている。

松永・大久（2012）の臨床実験では、同じ逸脱行動をとる子に対しても、保育者の言葉がけの内容によって、周囲の子どもたちの「気になる」子どもに対する好意度や認知が異なることを明らかにしている。この報告においても、保育者の「気になる」子どもへの個別の支援は、周囲の子どもたちに大きな影響を与えており、それが同時に「気になる」子どもの集団適応に繋がっていくことが示されている。

これまでの先行研究において、「気になる」子どもの支援について保育者は、「気になる」子ども自身の育ちを促す個別の支援だけでなく、「気になる」子どもの周囲の子どもたちを育てる集団への支援も重要視していることが明らかにされた。

このことを、巡回相談に関わる専門家がしっかりと意識して、保育者らと連携して支援方法を検討していくことが、「気になる」子どもの支援を考える上で欠かせないと考えられる。

IV まとめ

本稿では、「気になる」子どもに関連する先行研究を調査し、以下のことを明らかにした。

「気になる」子どもに対する保育者の抱くイメージは、近年の関連した調査報告をまとめると、ほぼ「発達障害傾向のある子どものイメージ」であることが示された。また、保育者のイメージに強く影響を与える要因として、自閉症スペクトラムの社会性と関連した集団適応能力の要因と、ADHDの多動性と衝動性の要因が強く保育者のイメージに関係していることが理解できた。さらに、これらの要因がいずれも社会性と関連する要因であることから、保育者が子どもを保育する際に、子どもの社会性を重要視している可能性が示された。

次に、保育者が「気になる」子どもの支援において何を重視していることについては、「気になる」子どもの支援のみならず彼らが所属する集団への支援を重要視していることが理解できた。

佐藤（2004）は、小学生くらいまでの子どもの行動特性として、良くも悪くもニュートラルな状態にあると言及している。つまり、子どもの行動は、周囲の子どもや所属する集団が築き上げる価値観や習慣に強く影響を受けるということである。「気になる」子どもへの個別の支援を植物の種で例えるならば、その種が発芽し豊かに成長するためには、所属する集団という土壌が「気になる」子どもと支援者を応援する習慣や温かい雰囲気のある豊かな土壌であることが不可欠である。

「気になる」子どもを対象とした専門家による保育現場への巡回相談システムを導入している市町村は、ここ 10 年間で大幅に増加している。しかし、個別の支援に関する助言のみならず、周囲の子どもや集団への支援についても助言できる専門家は限られているのかもしれない。今後は、巡回相談の回数ばかりではなく、巡回相談の質が問われる時代に入ると考える。そこで、巡回相談の質を検討する多くの研究が今後も継続実施されることを期待したい。

参考文献

1. 藤崎春代・木原久美子 2010 「気になる」子どもの保育 ミネルヴァ書房
2. 郷間英世・圓尾奈津美・宮地知美・池田友美・郷間安美子 2008 幼稚園・保育園における「気になる子」に対する保育士の困難さについての調査研究 京都教育大学紀要, 113, 81-89.
3. 刑部育子 1998 「ちょっと気になる子ども」の集団への参加過程に関する関係論的分析 発達心理学研究, 9, 1-11.
4. 肥後功一 2001 気になる子の心理臨床医的理解(第一報)ー保育者による気になる子の記述からー 島根大学教育学部附属教育臨床総合研究センター紀要, 1, 61-77.
5. 平澤紀子・藤原義博・山根正夫 2005 保育所・園における「気になる・困っている行動」を示す子どもに関する調査研究: 障害群からみた当該児の実態と保育者の対応および受けている支援から 発達障害研究, 26, 256-267.
6. 本郷一夫・澤江幸則・鈴木智子・小泉嘉子・飯島典子 2003 保育所における「気になる」子どもの行動特徴と保育者の対応に関する調査研究 発達障害研究, 25, 1, 50-61.
7. 本郷一夫編著 2006 保育の場における「気になる」子どもの理解と対応ー特別支援教育への接続ー プレーン出版
8. 本郷一夫・飯島典子・平川久美子・杉村僚子 2007 保育場面における「気になる」子どもの理解と対応に関するコンサルテーションの効果 LD 研究, 16, 3, 254-264.
9. 井口均 2000 保育者が問題にする「気になる子」についての傾向分析 長崎大学教育学部紀要教育科学, 59, 1-10.
10. 池田友美・郷間英世・川崎友絵・山崎千裕・武藤葉子・尾川瑞季・永井利三郎・牛尾禮子 2007 保育所における気になる子どもの特徴と保育上の問題点に関する調査研究 小児保健研究, 66, 6, 815-820.
11. 金田利子・岡村由紀子・山岡三佐子 2000 保育のなかでの発達の危機をどうのりこえるかー自己コントロールができない自分を見つめる「4歳児」の分析をとおしてー 保育学研究, 38, 153-161.
12. 木村明子・松本秀彦 2011 保育者が「気になる子」の発達と行動特性 作新学院大学論集(1), 209-225.
13. 小谷隆史・山下勲 2008 「気になる子ども」の実態とその対応に関する研究 安田女子大学心理教育相談研究, 7, 1-14.
14. 久保山茂樹・斉藤由美子・西牧謙吾・當島茂登・藤井茂樹・滝川国芳 2009 「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する研究ー幼稚園・保育所への機関支援での踏まえるべき視点の提言ー 国立特別支援教育総合研究所研究紀要, 36, 55-76.
15. 松永あけみ・大久保沙織 2012 幼児の他児認知に及ぼす保育者の言葉がけの影響(1) 群馬大学教育学部紀要人文・社会科学編, 61, 189-199.
16. 岡村裕子 2011 保育者からみた「気になる子ども」についての調査研究 滋賀大学大学院教育学研究科論文集, 14, 37-48.
17. 尾崎啓子・吉川はる奈 2009 私立幼稚園における「気になる子ども」の保育の困難さに関する調査研究ー自由記述の分析を中心としてー 埼玉大学紀要教育学部, 58, 2, 197-204.

18. 佐藤暁 2004 発達障害のある子の困り感に寄り添う支援 学習研究社
19. 玉井ふみ・堀江真由美・寺脇希・村松文美 2011 就学前における「気になる子ども」の行動特性に関する検討 県立広島大学保健福祉学部誌人間と科学, 11, 1, 103-112.
20. 吉村智恵子 2003 幼稚園で「気になる子」の傾向—保育者の記述分類— 名古屋女子大学紀要, 49(人・社), 55-65.

